

平成26年度水戸市協働事業
の選定に係る審査について

答 申

平成 26 年 3 月 20 日

水戸市協働推進委員会

目 次

	ページ
平成 26 年度水戸市協働事業の選定に係る審査	
審査結果及び全体講評	1
各事業の概要及び委員会意見	2
選考過程・基準	10
委員名簿	11

平成 26 年度水戸市協働事業の選定に係る審査

審査結果及び全体講評

【 審査結果 】

本委員会における審査の結果は、次のとおりである。

推薦する事業

- 水戸の子育て情報誌づくり
- 子どもを主体とする創造的放課後事業の推進—《放課後の学校クラブ》の定着と拡張を目指して
- Let' s DANCE!!～ダンスをみんなで楽しもう!～
- 木戸房池ビオトープ整備事業
- 外国人を対象とした防災意識啓発事業
- 水戸の職人物語広報プロジェクト

【 全体講評 】

平成 26 年度水戸市協働事業の公募に対しては、8 件の協働事業が提案され、2 月 26 日に公開プレゼンテーションが実施された。このうち、前年度からの継続が 6 事業あり、新規が 2 事業であった。8 事業のうち、平成 25 年度から募集を開始した「行政課題提示型メニュー」への提案が 3 事業、従来の「自由提案型メニュー」への提案が 5 事業あり、水戸市の行政課題や地域課題の解決に向けた、市民の意識の高まりを感じることができた。

提案のあった事業のうち、「水戸の子育て情報誌づくり」及び「子どもを主体とする創造的放課後事業の推進—《放課後の学校クラブ》の定着と拡張を目指して」は、協働事業提案制度を活用した協働事業としては、平成 26 年度で最終年度となることから、市の担当課とともに、長期的な展望を持って、事業継続に向け、更なる内容の向上に取り組んでいただきたい。

いずれの事業についても、事業の実施に当たっては、提案団体と市の担当課において十分協議し、補助金の適正な運用及び予算の適切な執行を心掛け、より効率的で透明性のある事業運営に繋げていただきたい。同時に、市民のニーズの把握に努め、適切に事業に反映させるなど、市民の目線に立った事業運営を進めてほしい。

協働事業提案制度は、平成 26 年度で 5 年目を迎えるが、今回、初めて学生からの事業提案が行われるなど、市民活動の広がりを感じることができた。本制度が、市民が協働についての理解や関心を深めるきっかけとなるよう、市には、これまで以上に広報や啓発に一層努めていただきたい。

今後も、様々な分野において、市民活動団体と市が、お互いの特性を生かしながらパートナーとして事業に取り組むことで、相乗効果が生まれ、市民と行政との協働によるまちづくりが更に発展していくことを期待したい。

各事業の概要及び委員会意見

提案事業名	水戸の子育て情報誌づくり	推薦する (287点)
提案団体 水戸子育てネットワーク「みとこみ」	市の担当課 子ども課	
事業の概要	<p>1 「子育て中の“ママ目線”」による子育て情報誌の作成</p> <p>初めて子育てする親や水戸に引っ越してきた親などが知りたい情報を、子育て中の“ママ目線”で発信する。自身も子育て中の母親たちが、これまで見落とされがちだった事柄に着目し、情報収集や意見交換を重ねて、より身近な視点に立った子育て情報誌及び子育てマップを作成する。</p> <p>さらに、より多くの人に「ママナビ」の情報を提供できるよう、「ママナビ」Webサイト開設に向けて準備を進める。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、子育て中の親の視点や自由な発想を生かし、平成24年度から2年間情報誌の作成に取り組んできた。</p> <p>提案団体は、子育て中の各家庭の様々な状況に対応できるよう、情報誌における具体的な情報の提供を心がけてほしい。</p> <p>市の担当課は、提案制度による協働事業終了後の事業継続も視野に入れ、提案団体とともに、今後の事業運営のあり方について検討していただきたい。特に、Webサイトの開設にあたっては、積極的に提案団体のサポートを行っていただきたい。</p> <p>「ママナビ」が、子育て中の親たちが前向きに子育てに取り組む一つのきっかけとなるよう期待する。</p>	

提案事業名	子どもを主体とする創造的放課後事業の推進 —《放課後の学校クラブ》の定着と拡張を目指して	推薦する (240点)
提案団体 放課後の学校クラブ実行委員会	市の担当課 総合教育研究所	
事業の概要	<p>1 他学校・団体との連携</p> <p>これまでの事業の中で培った「もうひとつの学校」の方法論を、他の学校に波及させていくため、他の団体と連携し、水戸市内の「放課後子ども教室事業」へ組み込むための基盤を整備していく。</p> <p>2 活動の普及</p> <p>平成 25 年度に作成予定の『放課後の学校クラブマニュアル (仮)』を活用し、水戸市内の「放課後子ども教室事業」と連携して、活動の普及を促す。</p>	
委員会意見	<p>平成 26 年度においては、水戸市内の「放課後子ども教室事業」との連携が計画されており、浜田小学校以外の学校においても、本活動が実践されることから、更なる普及の促進が期待できる。</p> <p>提案団体は、これまでの 2 年間の本制度を活用した協働事業の成果を踏まえ、今後の展望を持って、更なる事業の充実に向け、主体的に取り組んでいただきたい。</p> <p>市の担当課は、提案団体と連携し、各学校の活動状況に応じたマニュアルの活用方法の検討等、提案団体のノウハウやスキルが効果的に発揮できるような環境づくりを進め、本活動の定着と拡張について、検討を進めていただきたい。</p>	

提案事業名	Let' s DANCE!!～ダンスをみんなで楽しもう!～	推薦する (276点)
提案団体 W_α L P H A (ダブルアルファ)	市の担当課 総合教育研究所	
事業の概要	<p>1 専門的なダンス授業の展開及び授業システムの確立</p> <p>小学校では平成 23 年度から、中学校では平成 24 年度から、ダンスが体育授業の一環として導入されたことを受け、学校現場では、より専門性の高い内容を継続して指導できる体制が求められている。</p> <p>このことから、ダンスのインストラクターにより、教員向け講習会や、各学校でのダンス授業支援事業、ダンステキスト等の作成を実施することで、児童・生徒たちへの指導・評価方法を提供し、児童・生徒たちの自己表現力やコミュニケーション能力の向上につなげる。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、時流に沿った行政課題に対し、提案団体の専門性を教育現場に生かすことができ、提案団体と市にとってもメリットが得られる事業といえる。</p> <p>平成 26 年度の事業計画において、ダンステキストやDVDの作成が予定されているが、教員向け講習会やダンス授業支援事業に加え、各学校の教員が、専門性の高い内容を児童・生徒の習熟度にも対応した指導ができるよう、よりきめ細やかな教材の作成を心がけていただきたい。</p> <p>市の担当課は、学校を始めとする関係機関との連携を図るとともに、よりよい授業を展開できるよう、提案団体と連携を密にし、今後も継続して事業に取り組める体制づくりに努めていただきたい。</p> <p>本事業をきっかけに、児童・生徒間のコミュニケーションが促進されることを期待する。</p>	

提案事業名	地場農産物利用促進事業 水戸ご当地カレー「MI TOカレー」プロジェクト	推薦しない (237点)
提案団体 いばらきK I Z U N Aプロジェクト	市の担当課 農業技術センター	
事業の概要	<p>1 「水戸カレーバトル」の実施</p> <p>カレーは、老若男女を問わず幅広く親しまれている国民食であり、全国の県庁所在地における、水戸市の消費量は上位にある。このことから、「地産地消」の考え方に基づき、地元農産物を使用したカレーの outlet を募り、人気投票による水戸ご当地カレーの啓蒙活動を行う。</p> <p>2 地元農産物を使用したご当地カレーの開発</p> <p>飲食店・企業・一般家庭・生産者から、地元農産物を使用した新しいカレーのレシピを募集し、ご当地カレー「MI TOカレー」として開発し、水戸納豆に続く全市民的な水戸の新しいブランドに育て、水戸のイメージアップにつなげる。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、本市におけるカレーの消費量を増加させることで、地場農産物の利用促進及び水戸市のイメージアップにつなげるという目的で提案された事業であり、本市の活性化に寄与する事業と思われる。しかしながら、地場農産物の利用促進のための方策について、具体性が乏しく、要件として十分ではなかったと言わざるを得ない。</p> <p>地場農産物の利用をどのように促進させ、水戸市のイメージアップにつなげていくかについて、提案団体と市の役割分担も含め、長期的な展望から本事業を再精査し、水戸市のイメージアップにつながるための事業としての再提案を期待する。</p>	

提案事業名	木戸房池ビオトープ整備事業	推薦する (273点)
提案団体 特定非営利活動法人 エコ・グリーンいばらき	市の担当課 環境課	
事業の概要	<p>1 木戸房池ビオトープの整備</p> <p>木戸房池は、里山の面影を残す平地林に囲まれ、水源が主に湧水であり、多様な生物が生息する貴重な場所であるが、近年平地林は荒れ、大量のごみの不法投棄等が問題となっていた。</p> <p>提案団体と地元とが協力し、子どもたちの環境教育の場及び自然に親しむ人々の憩いの場をつくりあげるため、ごみの処分や里山の整備を進めている。</p> <p>今後は、周辺地域の小中学校や一般ボランティアの一層の活動参加により周知啓発を図り、多様な動植物が生息し、多くの人が自然に触れ合うことができる環境を整備する。</p>	
委員会意見	<p>本事業は、現地を自然の生態系豊かな里山として整備することを目的としており、継続的な取組が必要である。提案団体は、今後の展望を持った上で、事業運営に取り組んでいただきたい。</p> <p>提案団体は、生態系の保全に十分配慮した環境整備を進めるとともに、事業の効果が市民に見える形での、事業の運営を心がけてほしい。</p> <p>市の担当課は、周辺地域の小中学校等の関係機関との連携を図り、地域住民への波及効果を高め、本事業が、水戸市内のビオトープ整備事業のモデルケースとなるよう、周知、広報等の支援を行っていただきたい。</p> <p>本事業を通じ、現地が広く市民が親しむことができる里山となることを期待する。</p>	

提案事業名	外国人を対象とした防災意識啓発事業	推薦する (284点)
提案団体 みと男女平等参画を考える会	市の担当課 地域安全課	
事業の概要	<p>1 外国人を対象とした防災パンフレットの作成</p> <p>水戸市に居住する約3,000人の外国人市民が、東日本大震災発生時に、日本語の読み書きに不慣れなため、必要な情報が得ることができず、不自由を強いられた。</p> <p>このことから、平成25年度に、災害時に必要な情報について、彼らの認識に合わせた独自の防災ノートを作成した。</p> <p>今後は、この防災ノートを活用した防災訓練・講座を開催するほか、実際に生活する外国人市民からの意見を検証し、内容の改善を進める。</p>	
委員会意見	<p>平成26年度においては、平成25年度に作成した防災パンフレットを活用した防災訓練や防災講座の開催が予定されている。提案団体は、防災パンフレットの活用にあたり、外国人市民と直接コミュニケーションを図るなど、本事業を、外国人市民が地域に馴染むきっかけの一つとしてほしい。</p> <p>また、中国語、韓国語、英語の3か国語でも対応することが難しい外国人市民への対応として、外国人市民にわかりやすい「やさしい日本語」や、多言語に対応した防災情報の提供など、きめ細やかな対応に努めていただきたい。</p> <p>防災パンフレットの増刷にあたっては、他の機関等で発行されている防災パンフレットも参考に、内容を再検討されたい。また、編集作業等について、提案団体と市担当課の役割分担を明確にし、効率的な事業運営を心がけていただきたい。</p> <p>市の担当課は、防災訓練・講座の開催等、事業の円滑な運営に向け、関係機関との連携について支援を行っていただきたい。</p> <p>本事業が、防災のまちづくり、外国人にやさしいまちづくりにつながるよう、事業に取り組んでいただきたい。</p>	

提案事業名	『偕楽園なんでも百科』改訂版の発行と活用	推薦しない (236点)
提案団体 偕楽園公園を愛する市民の会	市の担当課 総合教育研究所 観光課	
事業の概要	<p>1 『偕楽園なんでも百科』の改訂作業 教育, 観光といった視点からのアプローチに加え, 東日本大震災からの復興の様子などを盛り込み, より幅広く活用される内容に改訂する。</p> <p>2 『偕楽園なんでも百科』の活用推進 『偕楽園なんでも百科』を活用した展示会や, ワークショップを実施するとともに, 市内の小中学校に『偕楽園なんでも百科』を配布し, 学習教材の一つとして活用する。 また, 観光分野においても, 梅まつりの中学生ボランティアへの事前教育や, 市職員の観光案内等でのホスピタリティ能力の向上に活用する。</p>	
委員会意見	<p>『偕楽園なんでも百科』は, 本市の重要な観光資源の一つである偕楽園公園について, 多角的に紹介している冊子であり, 完成度は非常に高いものである。</p> <p>今回の提案では, 東日本大震災の被害の状況や復興の様子を含めた改訂と併せて, 『偕楽園なんでも百科』を活用した教育・観光部門における普及活動が計画されていたが, 協働事業として実施するにあたっては, 提案書の内容より更に踏み込んだ形での活用方策について提案をいただきたかった。</p> <p>教育部門における活用については, 子どもたちが, 偕楽園にじかに触れ, 楽しみながら学ぶことができるようより具体的な活用方策について検討し, 学校教育課程における郷土愛の醸成を図るための取組みの中で位置付けていただきたい。</p> <p>また, 観光部門においては, 観光ボランティアの事前学習における活用だけでなく, 観光客等に対する本市の魅力発信につながるような活用手段についても, 検討いただきたい。</p>	

提案事業名	水戸の職人物語広報プロジェクト	推薦する (243点)
提案団体 常磐大学地域政策研究会	市の担当課 商工課	
事業の概要	<p>1 中心市街地の魅力づくりに向けての広報活動の実施</p> <p>提案団体及び各商店街、行政による実行委員会を立ち上げ、中心市街地のそれぞれの店から、代表的な一品をそれぞれ「こだわりの一品」として選び出し、各商店街が発行する情報紙等に取り上げる。</p> <p>また、Webサイトの立ち上げやパンフレットの作成を行い、各商品の情報や店の自慢といった情報をより広く発信する。</p> <p>さらに、「こだわりの一品」の活用にあたり、提案団体と各店舗による戦略会議を立ち上げ、作成したパンフレット等を活用し、継続的なまちなかの賑わい創出に向けた企画を立案、実施していく。</p>	
委員会意見	<p>今回の提案は、学生ならではの視点から、中心市街地の魅力の発掘、情報発信を通じ、まちなかの賑わい創出につなげるという、本制度開始以来、初めてとなる学生からの事業提案であった。</p> <p>公開プレゼンテーションにおいては、提案団体の熱意は伝わったが、事業計画は、やや具体性に欠ける印象が残った。提案団体は、まちなかの賑わい創出に向け、具体的にどのような手段を講じていくのかを再検討するとともに、他の団体との連携も視野に入れ、より効果的な事業運営に努めていただきたい。また、市の担当課と連携を密にし、提案団体の構成員が変わっても、持続可能な事業運営のあり方について模索しながら、事業に取り組んでいただきたい。</p> <p>市の担当課は、柔軟性等に富んだ彼らのアイデアが、本事業において十分に発揮できるよう、関係機関との連絡調整や広報周知の面において、積極的な支援を行っていただきたい。</p> <p>本事業により、若い世代がまちなかに訪れやすい仕組みが構築され、水戸市の中心市街地の賑わい創出につながることを期待する。</p>	

選考過程・基準

【選考過程】

協働事業提案書をもとに、2月26日に実施された公開プレゼンテーションにおいて、事業の概要や協働による効果、役割分担、収支計画などについて、提案団体から説明を受けた。また、提案団体及び市の担当課に対して、委員による質疑応答を行った。

その後、全体での審査において、全委員の総合得点をもとに、各提案事業について、公共性や協働の必要性などの面から、協働事業として実施すべきか否かについて審査した。また、効率性や役割分担など、事業に取り組むに当たって、提案団体と市の担当課とがさらに協議を深めるべき事項について意見した。

【選考基準】

提案書類と公開プレゼンテーションをもとに、8つの審査項目に沿って採点した。各委員の持ち点を40点とし、全委員の採点を合計した総合得点を審査の基礎とした。

また、今回の審査では、提案団体のスキルアップと、より質の高い事業提案を促進するため、総合得点の6割にあたる240点を推薦に値するかどうかの基準として設定した。

なお、提案団体の家族、親族、関係者である委員は、公平性の観点から当該提案事業の審査は行わず、他の9名の委員による採点の平均点を加算して、得点を調整することとした。

審査項目及び審査の視点（40点満点）

審査項目	審査の視点	配点
先見性・独創性	新たな着想や創意工夫があるか	5
事業の公共性	不特定多数の利益，社会全体の利益につながるか	5
ニーズの理解	社会的課題や市民ニーズをとらえているか	5
協働の必要度	協働による相乗効果が期待できるか	5
事業の将来性	成果の活用や波及効果など将来展望が明確か	5
手段の効率性	労力や経費などの見積りが適切か	5
役割分担	自立性を尊重し，お互いの長所を生かしているか	5
実現可能性	自己資金の確保や企画内容が実現可能か	5

水戸市協働推進委員会委員名簿

氏名	所属等	組織区分
委員長 金本 節子	茨城大学 人文学部教授	学識経験者
副委員長 水嶋 陽子	常磐大学 人間科学部准教授	
大野 覚	認定NPO法人茨城NPOセンター・ commons 理事・事務局次長	NPO代表
平沼 賢治	水戸市ボランティア連絡協議会 副会長	ボランティア 代表
大槻 義光	水戸市住みよいまちづくり推進協議会 常任理事	コミュニティ 代表
鹿倉よし江	水戸女性会議 会長	女性団体 代表
石川 浩之	水戸商工会議所 地域資源振興課長	関係団体
沢畑 樹彦	社団法人 水戸青年会議所 2013年度 専務理事	
久保 隆		公募市民
坂場 一栄		

【任期】

平成 25 年 2 月 7 日から平成 27 年 2 月 6 日まで（2 年間）

【参考資料】水戸市協働推進委員会抜粋

（任期）

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。